

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第304回)

日時 平成28年10月4日(火) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されれば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、水分解による水素生成効率を向上させる

新型ナノ構造光触媒の開発

解説 鈴木博之東京大学特任研究員

3、『新エネルギー関連ニュースNO.159』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る9月8日開催の第303回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、清原淳平専務理事より、当日の講師・村上尚久文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課長の経歴紹介がありました。

次に、村上課長より、「科学技術白書の解説」と題して以下の趣旨の解説がありました。科学技術白書は、平成7年に制定された科学技術基本法に基づき、閣議決定を経て公表されている。その内容は第5期科学技術基本計画(本年度～2020年度)に基づいている。本年度の主な視点として、ITや人工知能などの技術の進展に伴う社会構

造の変化が挙げられる。高度なデータを収集し、質の高いサービスにつなげる。エネルギーの地産地消、インフラの整備、危険作業はロボットに任せ、人間はコミュニケーションや企画立案などの業務に集中するなどの構造の変化が予測される。日本の強みはロボット製作などものづくり分野にあるが、データ解析等の分野は弱い。また、ここ数年は日本人科学者のノーベル賞受賞者が増えているが、受賞に至る研究は90年代の研究予算が潤沢であった時代からはじまったもので、ここ最近の科学技術に関する予算は中国の10分の1である。近年のノーベル賞受賞者も、このままでは20年後にノーベル賞受賞者を輩出できるか不安だとのコメントを残している。若手研究者は数少ない日本の大学内ポストを失うことを恐れ留学しない傾向にあるが、もっと海外留学を促進すべきだ、との解説でした。

まず、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.158』の解説がありました。今回は、○リチウム硫黄電池の硫化物イオンを分離する膜の開発。長寿命化へ期待。○水素製造効率を高める耐熱性の高い触媒素材の開発。○浮体式海流発電の実証試験開始。○家畜排せつ物で発電、来年秋稼働予定。○脱原発を掲げるドイツは電気代の値上げに苦しんでいる。日本では再生可能エネルギーの発電量は全体の3%でこの買取に1兆8千億円が使われている。ドイツを目指すのはもはや考えが古い。○アンモニアのみを燃料とし、ガスタービン回すことに成功。○白金を使わずに電極をつくり燃料電池の低コスト化に貢献。○世界最大級の潮流発電、3年後にも五島列島で実証開始。○生ごみに紙を混ぜるとバイオガスが増えることを確認した。○地熱発電の熱源、人工振動波で高精度探索、来年にも実証開始。○潮岬でメタンハイドレート調査開始。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 千円 にご協力お願い申し上げます。

次回、10月4日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp